

An aerial photograph of a city, likely Yamanashi, with Mount Fuji in the background. The city is densely packed with buildings and roads, and a river flows through it. The mountain is covered in snow and has a small peak visible. The sky is clear and blue.

裾野市の防災について

令和4年5月28日
裾野市危機管理課

説明項目

| No | 項目 | 時間管理 |
|----|----------------------------------|------|
| 1 | 説明の趣旨 | 1' |
| 2 | 裾野市の地域の特性 | 3' |
| 3 | 共助（コミュニティ）の必要性 （地区防災計画策定の必要性） | 2' |
| 4 | 令和4年度防災等に関する主要業務予定 | 2' |
| 5 | 県防災アプリの普及 | 2' |
| 6 | 質疑応答 | 5' |

説明の趣旨

裾野市の区長、自主防会長をはじめ防災に携わる皆さん方に対して裾野市の防災、特に、地域の特性及びコミュニティ活動（共助）の必要性等について説明し、防災意識の向上を図る。

また、県防災アプリについて概要を説明し、運用の周知・普及に資する。

富士山

裾野市の地域の特徴

- 人口：約5万1千人(16位/35市町村)
- 面積：138.12km²(17位/35市町村)
- 標高：78.5m～2,169m **標高差大**
- ◆ 「健康文化都市」宣言 (H7.12)
- ◆ 「平和都市」宣言 (H27.12)
- ◆ 「財政非常事態宣言」 (R3.2)
- ◆ トヨタ未来都市オープンシティ(R3.2)

宝永火口

富士高原帯

富士山麓帯

愛鷹山地帯

箱根山麓帯

黄瀬川低地帯

佐野川

新東名

東名

黄瀬川

大場川

南寄りの風

★ 令和2年6月30日～7月1日の大雨は、累加雨量が約440mmで須山地区が県内1位

★ 令和3年7月1日～4日の累加雨量は、富士山側で800mm超え1990年代観測記録更新

最高気温 (8月)
 平坦部 : 30.8℃
 須山地区 : 28.7℃ **2.1℃差**

最低気温
 平坦部 : -2.2℃
 須山地区 : -9.0℃ **6.8℃差**

年間平均気温
 平坦部 : 14～15℃

降水量 : 年間平均で約2,000mm
 多いのは6月～9月迄の4カ月間

愛鷹山

箱根山

箱根山

川

山

山

山

山

山

山

山

山

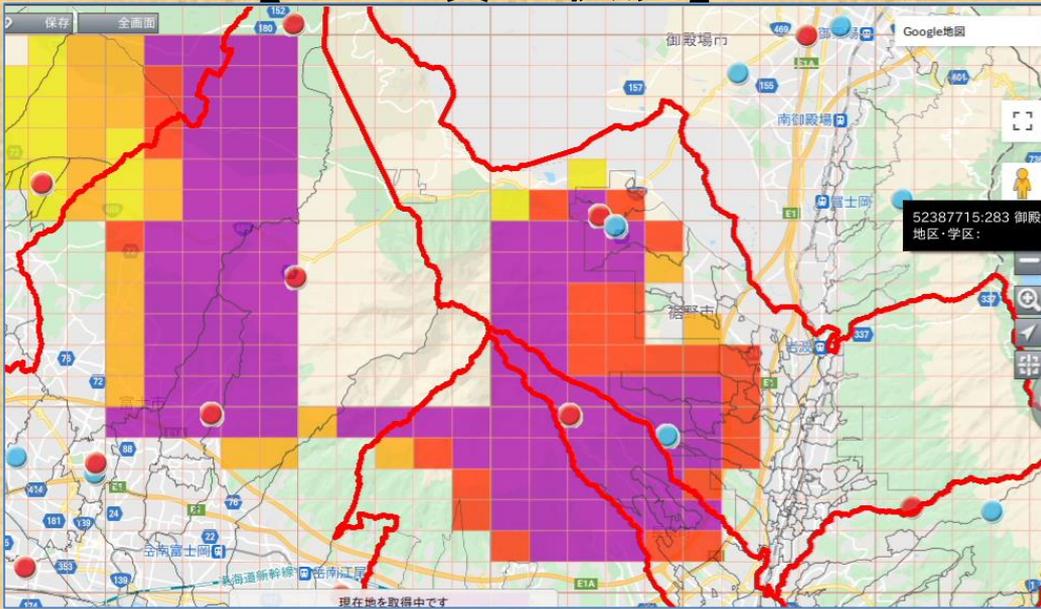
山

山

山

令和3年7月3日（土）未明の裾野市の土砂災害の危険性

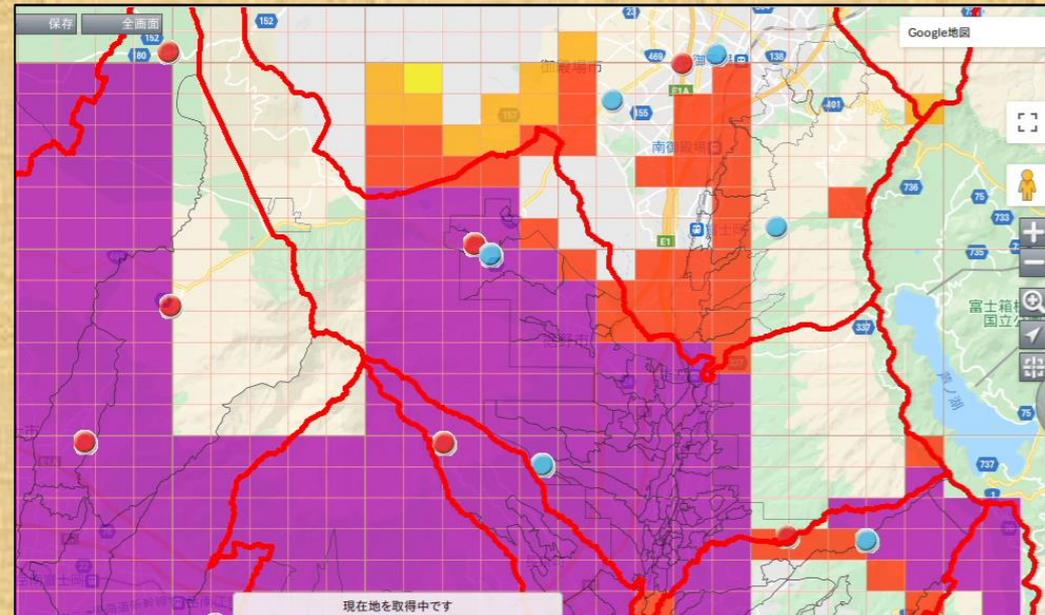
【00:10頃の状況】



【土砂災害危険度情報】

- 警戒レベル2相当： 黄色→注意
- 警戒レベル3相当： 橙色→警戒
- 警戒レベル4相当： 紫色→非常に危険
- ★濃紫色→極めて危険

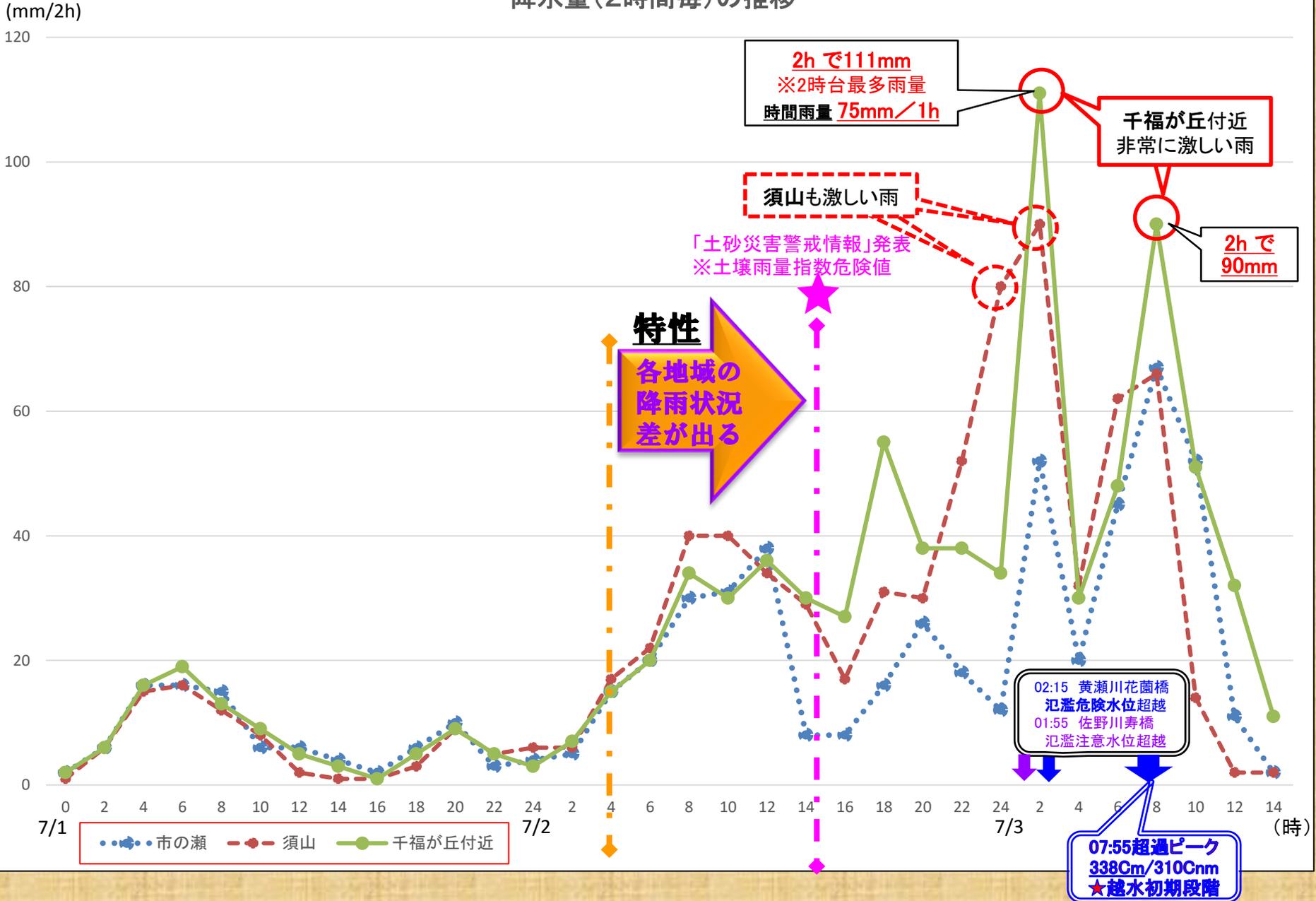
【02:30の状況】



★ 市内の居住地が殆ど
レベル4(紫色)となった。

令和3年7月1日（雨の降りだし）～3日（降雨ピーク時）の降水状況（推移）

降水量（2時間毎）の推移



令和3年7月3日（土）08:00頃の黄瀬川（花菌橋）付近の状況



**共助（コミュニティ）の必要性
（地区防災計画策定推奨）**

裾野市の災害対応（基準）



災害発生



〇〇区災害対策本部

区 長
自主防災会長

各役員等による活動

- 情報班
- 避難・誘導班
- 救出・救助班
- 消火班
- 災害時要配慮者班
- ・
- ・
- ・

（地震以外の災害では、直接連絡）



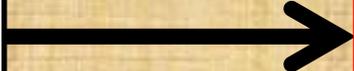
市災害対策本部
 992-1111（代表）
 （危機管理課：995-1817）

デジタル防災行政無線
 （半固定、車載、携帯）



（地震の場合）

自主防会長、区担当者等が広域避難地へ赴き、広域避難地班長に報告
「情報連絡票」



広域避難地（11カ所）

広域避難地班長以下数名の職員が、派遣され各地区の情報を市災対本部に報告する
 必要に応じ避難所の開設、救護所の開設等を行う・

（小グループとは、各区で決めている班・組・最寄等のことです。）

★ 必要により、情報収集のため職員派遣（巡回形式、常駐しない）

【デジタル防災行政無線の設置場所】 ※ 半固定型
 市民体育館、東保育園、裾野駅、岩波駅、今里本村集会所、十里木集会所、富沢公民館、本村下公民館、鈴原区集会所、峰下公民館、久根公民館、鹿島神社、原区集会所、石脇公民館、千福公民館、下条公民館、

裾野市の避難の流れ（基準）

オープンスペース 安全確保・安否確認



家に戻れない

市指定避難所

〇〇小学校
体育館、校舎

〇〇小学校グラウンド

〇〇組・班の避難地

〇〇組・班の避難地

区の避難地

〇〇広域避難地

区の避難地

(配布資料なし)

災害発生から避難所開設までの流れ

災害発生

① 一時避難所(地区集会所・公民館等)に避難・集合

自宅が全壊・焼失した住民

自宅の損壊がない住民

移動

帰宅

② 広域避難地に避難(自主防災会で誘導)

③ 指定避難所(体育館等)の建物点検 ※ 応急危険度判定

④ 広域避難地班員・施設管理者・自主防災会役員等で打ち合わせ

③と④の順序は、
当時の状況による

⑤ 避難所開設準備

⑥ 居住スペースの割り振り

⑦ 要配慮者の入室を優先

総合受付実施
入室

⑧ 自主防災会(区)単位で一般避難者の入室

⑨ 避難者カードの配布・記入

⑩ 避難所運営本部設置・その他必要施設の設置・設営

★ 避難所生活開始

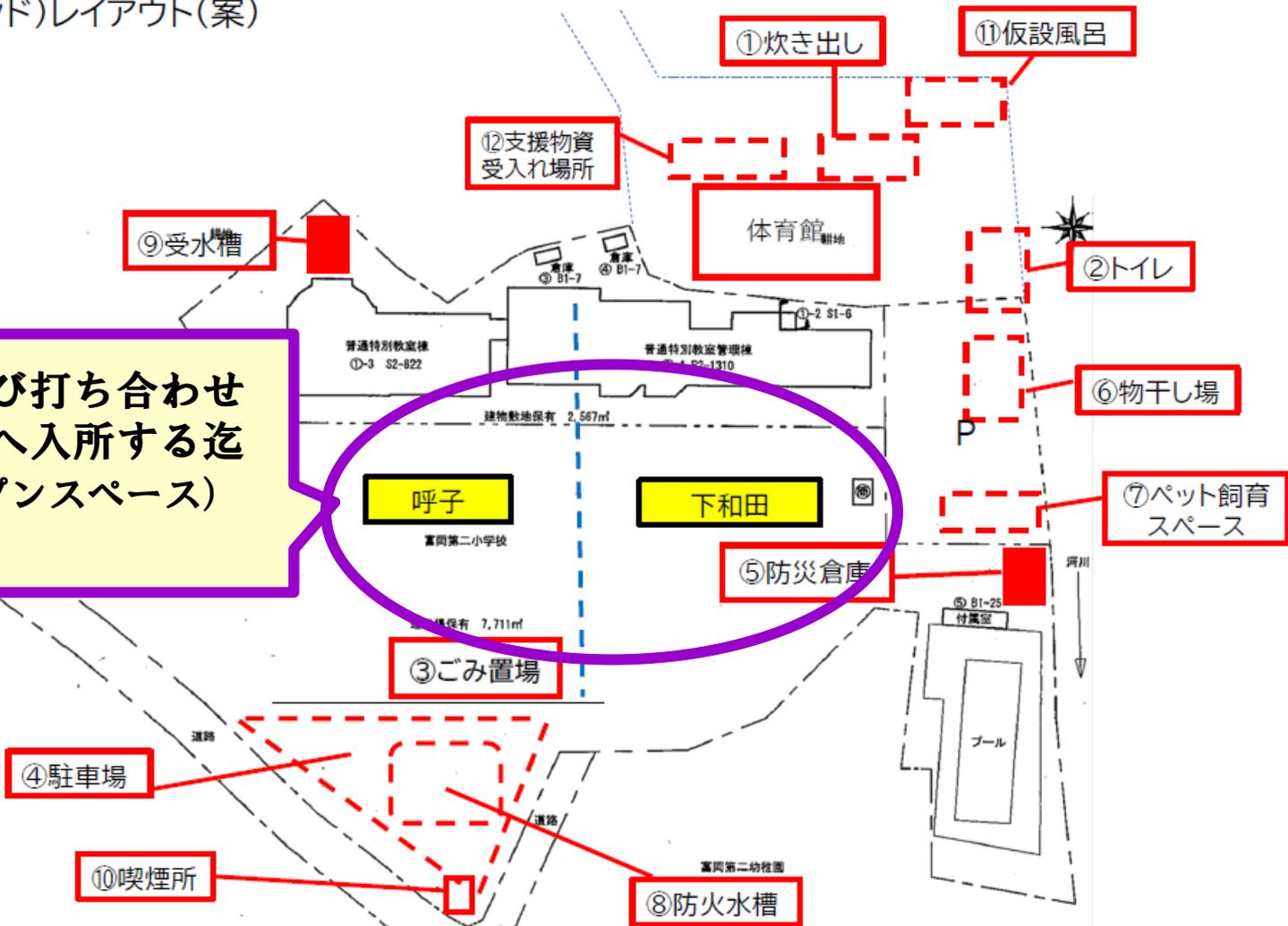
広域避難地班への避難

★ 広域避難地班へ避難後、市職員（広域避難地班）とコンタクト
→ 情報共有 区（自主防）の状況 ⇔ 市の状況（体制）等

広域避難地(グラウンド)レイアウト(案)

富岡第二小学校

応急危険度判定及び打ち合わせが終了し、避難所へ入所する迄はグラウンド（オープンスペース）で待機



災害発生から避難所開設までの流れ

災害発生

① 一時避難所(地区集会所・公民館等)に避難・集合

自宅が全壊・焼失した住民

自宅の損壊がない住民

移動

帰宅

② 広域避難地に避難(自主防災会で誘導)

③ 指定避難所(体育館等)の建物点検 ※ 応急危険度判定

④ 広域避難地班員・施設管理者・自主防災会役員等で打ち合わせ

③と④の順序は、
当時の状況による

⑤ 避難所開設準備

⑥ 居住スペースの割り振り

⑦ 要配慮者の入室を優先

総合受付実施
入室

⑧ 自主防災会(区)単位で一般避難者の入室

⑨ 避難者カードの配布・記入

⑩ 避難所運営本部設置・その他必要施設の設置・設営

★ 避難所生活開始

建物点検（応急危険度判定）

「富岡第二小学校の体育館」は、令和元年度に建て替えられ、耐震化ランクが最も高い「Ia」であるため、市職員（応急危険度判定士）の派遣による判定は実施しない。

施設管理者である学校職員、あるいは市職員（派遣された広域避難地班）が建物外部及び内部の破損状況等を確認し、使用の可否を判定する。

→ 点検（判定）結果は、広域避難地班を通じ、対策本部へ報告



災害発生から避難所開設までの流れ

災害発生

① 一時避難所(地区集会所・公民館等)に避難・集合

自宅が全壊・焼失した住民

自宅の損壊がない住民

移動

帰宅

② 広域避難地に避難(自主防災会で誘導)

③ 指定避難所(体育館等)の建物点検 ※ 応急危険度判定

④ 広域避難地班員・施設管理者・自主防災会役員等 打ち合わせ

③と④の順序は、
当時の状況による

⑤ 避難所開設準備

⑥ 居住スペースの割り振り

⑦ 要配慮者の入室を優先

総合受付実施
入室

⑧ 自主防災会(区)単位で一般避難者の入室

⑨ 避難者カードの配布・記入

⑩ 避難所運営本部設置・その他必要施設の設置・設営

★ 避難所生活開始

避難所開設のための打ち合わせ

【参加者】

- ① 自主防災会役員(区長・自主防災会長等) ※ 下和田区・呼子区
- ② 施設管理者(学校職員:校長先生・教頭先生等)
- ③ 市職員(広域避難地班)

※ このイメージ図は、平時の実施状況



◆◆ 主な打ち合わせ内容(一例) ◆◆

1 それぞれの状況報告(情報共有)

- 自主防→安否確認状況、避難者数(在宅避難者数含)及び異状の有無、要配慮者の状況等、緊急を要する市への要望等
- 施設管理者→学校施設の被害状況、対応可能な職員等、(生徒の状況)、応急危険度判定
- 市職員→市の体制(対策本部設置等)及び被害(ライフライン)状況、対応する職員状況

2 避難所開設の準備(要領)

- 避難してきている要配慮者の処置 ※ 使用頻度の低い教室等への搬送
- 避難民の受け入れ(県防災アプリ活用による受付) ※ 職員・住民
- 活動可能な住民を区分し、開設準備
 - ① 居住スペースの割り振り(通路設置・段ボール間仕切り)グループ
 - ② 簡易トイレ設置グループ
 - ③ 発電機設置グループ

3 避難所への入所(室)要領の説明

災害発生から避難所開設までの流れ

災害発生

① 一時避難所(地区集会所・公民館等)に避難・集合

自宅が全壊・焼失した住民

自宅の損壊がない住民

移動

帰宅

② 広域避難地に避難(自主防災会で誘導)

③ 指定避難所(体育館等)の建物点検 ※ 応急危険度判定

④ 広域避難地班員・施設管理者・自主防災会役員等で打ち合わせ

③と④の順序は、
当時の状況による

⑤ 避難所開設準備

⑥ 居住スペースの割り振り

⑦ 要配慮者の入室を優先

総合受付実施
入室

⑧ 自主防災会(区)単位で一般避難者の入室

⑨ 避難者カードの配布・記入

⑩ 避難所運営本部設置・その他必要施設の設置・設営

★ 避難所生活開始

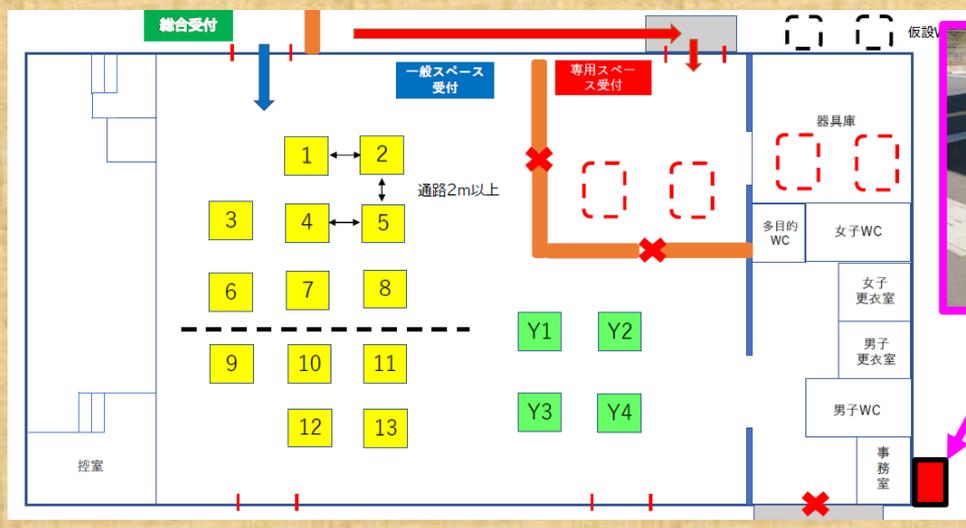
(配布資料なし)

避難所開設作業 (避難所設備等の設置)

(居住スペース割り振り、非常用電源確保・簡易トイレ設置)

- ★ **ゾーニング (一般用と専用の区分)**
- ① **通路の表示 (確保)**
- ② **要配慮者スペースの確保**
- ③ **居住スペースの確保 (段ボール間仕切り)**

- ④ **その他の施設等の準備**
- **非常用電源確保**
- 防災倉庫から **発電機等準備**



- ④ **その他の施設等の準備**
- **簡易トイレの設置**



(配布資料なし)

総合受付の実施 (スクリーニング・ゾーニング)

区分 (判別)

健常者 (一般スペース) と
体調不良者 (専用スペース)



- ① 県防災アプリ(避難所支援機能)による本人等確認
- ② 検温による発熱管理(体調確認)

総合受付

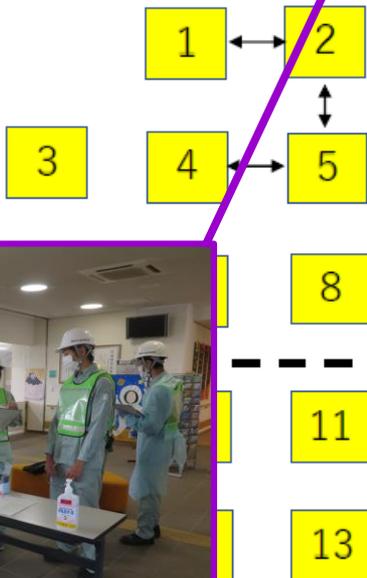
富岡第二小学校

仮設WC

一般スペース
受付

専用スペース
受付

通路2m以上



災害発生から避難所開設までの流れ

災害発生

① 一時避難所(地区集会所・公民館等)に避難・集合

自宅が全壊・焼失した住民

自宅の損壊がない住民

移動

帰宅

② 広域避難地に避難(自主防災会で誘導)

③ 指定避難所(体育館等)の建物点検 ※ 応急危険度判定

④ 広域避難地班員・施設管理者・自主防災会役員等で打ち合わせ

③と④の順序は、
当時の状況による

⑤ 避難所開設準備

⑥ 居住スペースの割り振り

⑦ 要配慮者の入室を優先

総合受付実施
入室

⑧ 自主防災会(区)単位で一般避難者の入室

⑨ 避難者カードの配布・記入

⑩ 避難所運営本部設置・その他必要施設の設置・設営

★ 避難所生活開始

避難所運営（開設）の主な役割分担

自主防災会 (組織)

- 避難所の立ち上げを主導
- 避難者や地域住民への情報伝達
- 居住組(在宅避難者)の把握及び支援
- 地域全体の防火・救助・防犯活動

施設管理者

- 広域避難地班職員と連携した施設・設備の被害状況や安全性の確認
- 学校や公共施設の管理
- 避難所の運営支援(主に施設・備品)
- 避難所運営組織から要請のあった事案について調整

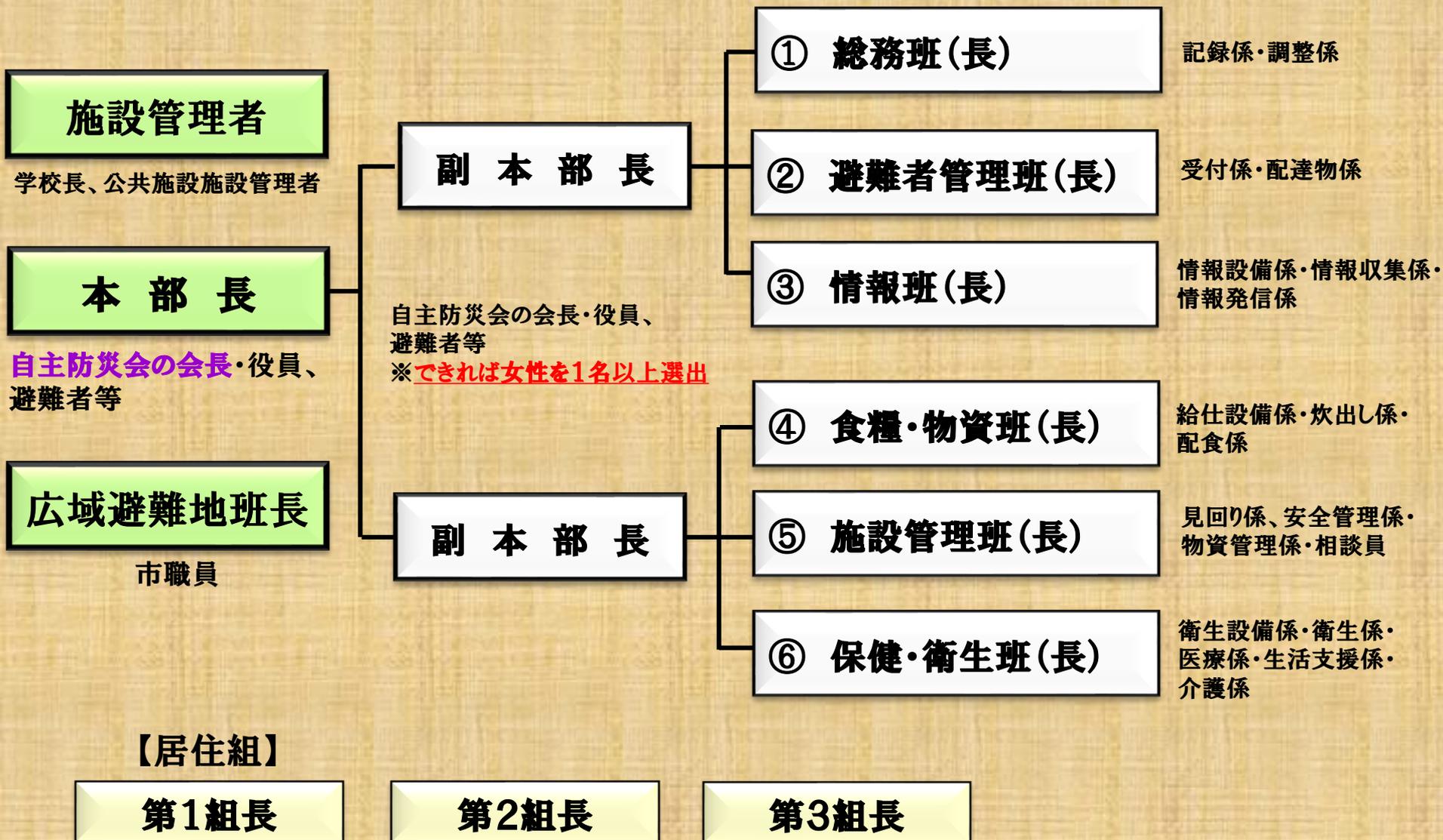
広域避難地班 職員(市職員)

- (施設管理者と協力した)避難所の開設・閉鎖
- 避難所の立ち上げ支援
- 避難所の運営支援
- 市災害対策本部への報告・要請
- 避難所の避難者及び居住組(在宅避難者)の取り纏めと情報提供

(配布資料なし)

避難所運営本部の組織 (一例)

◎ 各班長は、自主防災会の役員、避難者等
※ 女性の選出も検討



共助の重要性

- ◎ 地域コミュニティにおける共助の働きを受け、**災害対策基本法**が改正
 - 阪神・淡路大震災での教訓反映 ⇒ 1995年改正「ボランティアに関する規定が追加」
 - 東日本大震災での教訓反映 ⇒ 2012年改正「教訓伝承、防災教育の強化等に関する規定」
 - 「**地区防災計画制度**」が2014年4月施行、「**地区防災計画ガイドライン**」公表
- ◎ H26年～H28年度に**地域コミュニティの活性化**に向けて、「**地区防災計画モデル事業**」等の国の各種施策が行われた。

裾野市の共助の現状

- ◆ 86区の自主防災会 ⇒ 防災に関する**取組みに格差** ※ 計画作成、防災訓練、資機材備蓄等
- ★ **いつ災害が発生してもおかしくはない（蓋然性が高い）状況**

- 南海トラフ地震 : M8～9クラスの地震発生確率 **30年以内で70～80%**
- 富士山噴火 : 宝永噴火1707年から**315年**が経過
- 風水害 : 近年の**大雨**対応等

◎ **災害発生時に対応できる準備が必要** ★ **特に、初動が重要**

地区防災計画作成の作成

- ◇ 今年度、市として「**地区防災計画**」作成を奨励
- ◇ 地区防災計画作成要領は様々だが、**まずは作成してみる事が重要!**
- ⇒ **災害発生時の初動に焦点を当てて簡潔に作成**
 - ① **定型**に当てはめて作成（フォーマットの定型を市で準備）
 - ② **危機管理課職員動員**（区毎の担当を決め、作成に関する支援・助言等を実施）
- ★ **既存計画を保有する自主防災会**は見直し機会として活用
- ★ 作成後、**逐次内容を見直し、掘り下げ、拡充（深化）**させる。
本来は、**平常時・災害警戒時・復旧・復興時**の各段階毎に**詳細に作成**するもの。

地区防災計画作成状況

【作成・保有自主防災会】

43区／86区

| | |
|----|-------|
| 1 | 佐野本宿区 |
| 2 | 佐野二区 |
| 3 | 大畑区 |
| 4 | 上町区 |
| 5 | 南町区 |
| 6 | 堰原区 |
| 7 | 水窪区 |
| 8 | 公文名一区 |
| 9 | 滝頭区 |
| 10 | 本茶区 |
| 11 | 道上区 |
| 12 | 鈴原区 |
| 13 | 青葉台区 |
| 14 | 麦塚区 |
| 15 | 東町区 |

| | |
|----|-------|
| 16 | 町震一区 |
| 17 | 町震二区 |
| 18 | 南堀区 |
| 19 | 和市区 |
| 20 | 遠道原区 |
| 21 | 切久保区 |
| 22 | 上原区 |
| 23 | 上原団地区 |
| 24 | 原区 |
| 25 | 上須区 |
| 26 | 深良新田区 |
| 27 | 岩波区 |
| 28 | 御宿平山区 |
| 29 | 御宿新田区 |
| 30 | 御宿坂上区 |

| | |
|----|-------|
| 31 | 御宿入谷区 |
| 32 | 上城区 |
| 33 | 中村区 |
| 34 | 中里区 |
| 35 | 森脇団地区 |
| 36 | 上ヶ田区 |
| 37 | 下和田区 |
| 38 | 呼子区 |
| 39 | 千福が丘区 |
| 40 | 千福南区 |
| 41 | 須山二区 |
| 42 | 須山三区 |
| 43 | 須山四区 |

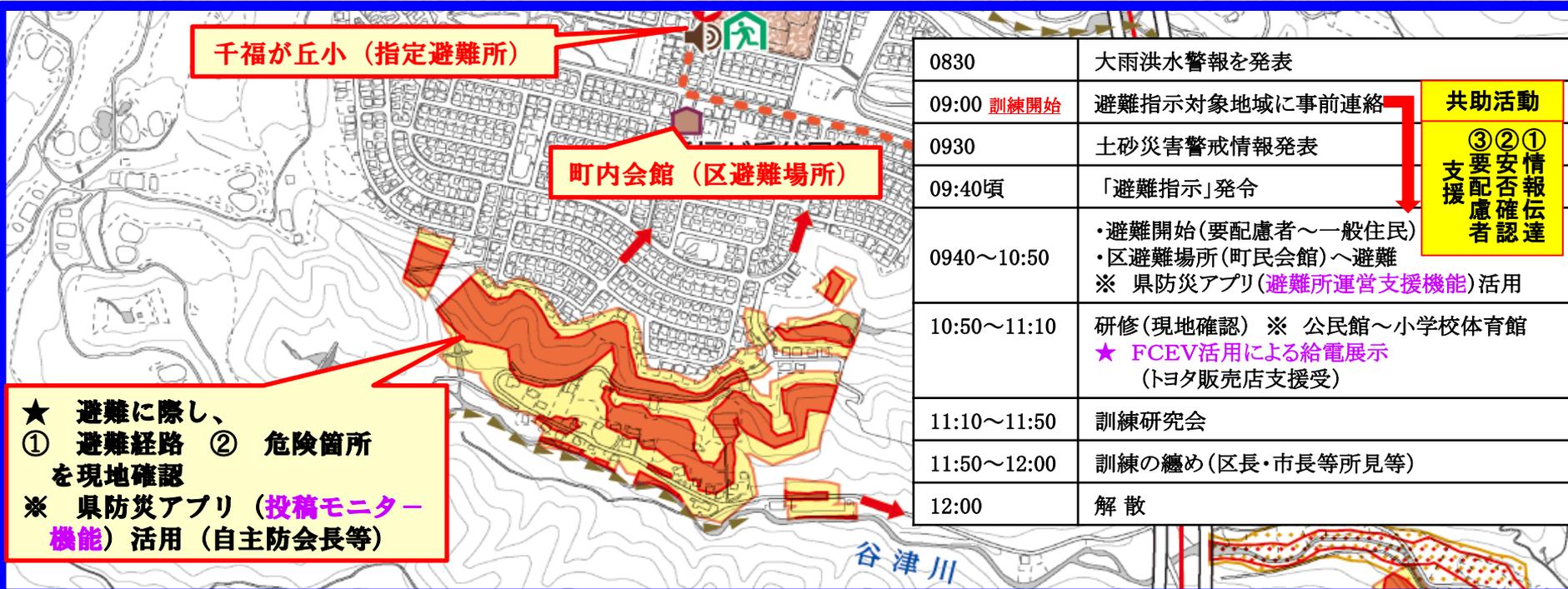
令和4年度防災業務予定

令和4年度防災等に関する主要業務予定

| | ～4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 4四半期 |
|---|----------------------------|--|---------------------|-------------------------------|-----------------------|---|--|------------------------------------|--------------|-------------------------------------|
| <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">3/30 富士山火山 広域避難計画 中間報告公表 新避難スキーム</div> <p>全般</p> | 県職員動員訓練 (抜き打ち) | 中旬 防災交流会 | 5 全国土砂災害 防災訓練 | 初～中旬 富士山火山防災 県情報伝達訓練 | 下旬(平日) 県総合防災訓練(図上) | 4 実動(中部:島田市を含む4市町) | 富士山火山避難 シミュレーション | 中旬 防災の集い (自衛隊講師) | 4 県地域防災訓練 | 2月頃 防災会議 1月中旬 県大規模図上訓練 |
| 本部運営 (情報伝達) | 情報伝達訓練 | | | 情報伝達訓練 | | | | | | 情報伝達訓練 |
| 本部 運営 | 班練成訓練 期間(設定) | | | | 事前訓練(調整) | 下旬 #2訓練(県主導) | | | | 是正訓練(予備) |
| モデル 地区 | 広域避難地班要員訓練 (応急危険度判定訓練含) | | | | | | | 中～下旬の土・日 須山地区(富士山火山避難訓練) | | |
| 総合防災訓練 | ★ ワクチン接種業務考慮 — 健康推進課計画 — | | | | | | | | | |
| 消防団 | | | | | 下旬の土・日 エンジンカッター | 3 県防災ヘリ支援 #1ヘリ誘導訓練 消防団員対象 (須山消防分遣所付近) | | | | |
| ヘリ 誘導 | | | | | | | | | 4 陸自ヘリ支援 | |
| 地区 | 地区防災計画普及期間 | | | | | 4 安否確認訓練等 自主防活動研究会(仮称) | | | | #2ヘリ誘導訓練 住民対象 (孤立予想地域) |
| 地域防災 訓練 | | 6 全国土砂災害防災訓練 モデル地区(千福ヶ丘)及び情報伝達訓練 | | | | | 10月～12/4の間 地区防災訓練(自主防計画) ※所属長等の現地確認・激励 | | | |
| 富士山 火山防災 | | | | 初～中旬 県情報伝達訓練参加 ※市独自訓練企画 | | ----- 避難シミュレーション | | 中～下旬の土・日 富士山火山避難訓練 (実動 須山地区) | | |
| 国民保護 | | GW後 課内訓練(図上) | | | | | | | | 1月 警察との打ち合わせ (現地確認・訓練) |

「土砂災害・全国防災訓練」実施の概要

| | | | |
|------------|--|------|----------------------|
| 実施日 (時) | 令和4年6月5日(日) ※全国統一日 (午前中09:00~1200予定) | 訓練方法 | 「モデル地区訓練」と「地域別訓練」に区分 |
| 想定等 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 静岡地方気象台と県砂防課は県内関係市町に対して「土砂災害警戒情報」発表 ◆ 市町は、災害対策本部等に移行し、避難所開設や避難指示発令(準備) ◆ 避難指示等を受けた地区住民は避難所へ避難、「土砂災害発生」被害なし。 | | |
| 訓練概要 | <ul style="list-style-type: none"> ■ モデル地区訓練 ⇒ 千福が丘区での実施を依頼 <ul style="list-style-type: none"> □ 市：仮対策本部立上げ(情報伝達・実員訓練統制)、(要配慮者利用施設の確認・懇談) □ モデル地区：区避難所(公民館等)への避難・研修・研究会 ※ 県防災アプリ(モニター投稿及び避難所運営支援機能の活用) ■ 地域別訓練：各区(自主防災会)計画 ※同報無線は、実施の旨を事前に広報で周知 同報無線による全般の状況付与(「土砂災害警戒情報発表」・「避難指示発令」)に基づき、土砂災害警戒区域対象の各自主防災会計画の行動(訓練)を実施 ※ 県防災アプリ(モニター投稿機能)活用による情報共有 | | |



土砂災害警戒区域該当の地域（区）

【西地区】

| | |
|---|--------------------|
| 1 | 大畑区 急傾斜地 土石流 |
| 2 | 桃園区 急傾斜地 土石流 |
| 3 | 富沢区 急傾斜地 土石流 |

【東地区】

| | |
|----|-----------------------|
| 4 | 久根区 土石流 |
| 5 | 公文名三区 急傾斜地 |
| 6 | 公文名四区 急傾斜地 土石流 |
| 7 | 公文名五区 急傾斜地 |
| 8 | 滝頭区 急傾斜地 |
| 9 | 道上区 急傾斜地 |
| 10 | 峰下市の瀬区 急傾斜地 土石流 |
| 11 | 鈴原区 急傾斜地 |
| 12 | 茶畑団地 急傾斜地 |
| 13 | 青葉台 急傾斜地 土石流 |

【深良地区】

| | |
|----|--------------------|
| 14 | 町震一区 土石流 |
| 15 | 南堀区 急傾斜地 土石流 |
| 16 | 上原区 急傾斜地 土石流 |
| 17 | 原区 急傾斜地 土石流 |
| 18 | 上須区 急傾斜地 土石流 |
| 19 | 岩波区 急傾斜地 |

【富岡地区】

| | |
|----|---------------------|
| 20 | 千福区 急傾斜地 土石流 |
| 21 | 御宿新田区 急傾斜地 |
| 22 | 上城区 急傾斜地 土石流 |
| 23 | 中村区 急傾斜地 |
| 24 | 田場沢区 急傾斜地 土石流 |
| 25 | 上ヶ田区 急傾斜地 |
| 26 | 金沢区 急傾斜地 |
| 27 | 今里区 急傾斜地 土石流 |
| 28 | 下和田区 急傾斜地 土石流 |
| 29 | 呼子区 急傾斜地 |
| 30 | 千福が丘 急傾斜地 |

【須山地区】

| | |
|---|---------------------|
| 1 | 須山二区 急傾斜地 土石流 |
| 2 | 須山三区 急傾斜地 |
| 3 | 別荘地内 急傾斜地 |

防災アプリ等普及

県防災アプリの普及

★ アプリをインストール



- ◆ 令和元年6月1日からスマートフォン向けで運用開始
- ◆ 令和3年度、市職員（防災担当等）及び自主防災会（自治会）にID付与

→ 裾野市として普及を強化（各種訓練等での活用）

- ◆ 基本情報（主要な6つの情報）★コロナ禍の密防止、デジタル化

- ① 防災情報・お知らせ：緊急防災情報を確認（外国人市民対応）
- ② 現在地の防災情報：現在地の危険度がわかる。
- ③ マップ・避難場所等：地域の危険性や避難先を把握
- ④ AR（危険度体験）：現在地の浸水状況等をイメージ
- ⑤ 避難トレーニング：防災訓練等に活用
- ⑥ 学習コンテンツ：防災知識のテスト

- ◆ その他機能

「防災モニター機能」、「避難所運営支援機能」、「SNS集約機能」等がある。

★ 土砂災害モデル地区(千福が丘)訓練で今回参加区民が使用

- ※ 「防災モニター機能」とは？

投稿機能を使い画像・動画・音声・コメントにより投稿

→ コミュニティ（自主防：共助）と行政（公助）との情報共有に活用できる。

- ★ 細部は、この後説明！

質疑応答